

## 生徒募集について③

～「専門性」と「多様化」～

2024・7・12 重枝 一郎

本校のような学校が、生き残り戦略を考えると、みなさんならどう考えるか？ 学校の生き残りだけ考える？ 自分の働きがいを考える？ 私は、他校と同じような学校じゃない学校にしたいという考えだけである。私は、存在意義のようなことに意識がいくところがある。ただ、いつも言っているように、一人一人見えている世界が違う。私が、「こんな学校にしたい」と言っても、「私はそう思わない」という人がいるのが、「集団」の当たり前である。だから私は、「校長としてのリーダーシップの取り方」を言う。リーダーシップの取り方を語らなければ、メンバーがやりにくくなったり、抑制になったり、主体性を失わせていくからである。ただ、ビジョンがなく、メンバーに丸投げはしない。ビジョンは「方向感」で語ることにしている。

ある文化人類学者が、「コンセンサスによって意思決定する社会では、多数決は最悪の選択になる」という。私も、同じような考えをもっている。コミュニティーにおける多数決での合意形成は、負けた側の屈辱や憎しみが心のどこかに存在する。時にそれが増幅され、コミュニティーを破壊しかねない。だから、そこでは反対意見の人も最終的には合流する妥協が重要になる。リーダーは、「多数決よりも高度な政治的技量」とメンバーは、「対立を煽らない思慮深さ」が求められる。

話を戻すが、最初に書いた「本校のような」って？

小中規模学校、私学、女子高、総合学園、キリスト教、音楽科・・・ここは当然の捉えでいい。私は、そこと、これからまだまだ続く少子化をどういう戦略で取り組んでいくかを考えていく。

避けては通れない危機がある中で、難しい局面であることは違いない。そんな時、よく言われるのが、次の2つの道である。

### ① 専門性を高める

専門性を高めると言っても、何を専門にするのかが問題になる。「大学受験の専門」という既存のカテゴリーからの脱却は重要になる。全く新しいカテゴリーを創造し、その専門になるということである。他校にはない差別化で生き残りを企てていくということである。これまでの音楽科の存在はこれにあたる。

### ② 多様化する

専門とは真逆である。いろんなコースですべてを捨てる戦略のこと。堅苦しくなく、若干習い事的になるかもしれないが、学びの百貨店（デパート）としてやっていく戦略になる。やりながら、柔軟に衣替えをして、学びのビギナーを狙っていく。同じ音楽大学でも「昭和音楽大学」は48もコースがある音楽大学である。一度パンフレット見たらびっくりすると思う。

この2つが、一般的に言われることである。今回の「響創コース」は、この①と②のミックスになる。どちらかにすることは、とてもできない選択だからである。

ちなみに、「多角化」という戦略もある。ただ、多角化するということは、今まで以上に経営力が問われる。この経営力というものは簡単に身に付くものではない。多角化は、まずは安定を手に入れてから行うものである。

①専門性②多様化という2つの道の話をしたが、本質的なところは、いかに生徒・保護者が喜ぶ価値を提供できるかということが重要である。この価値の提供をどうやっていくか、学校をどう育てていくか、その価値の中身が、時代に合うのか合わないのか、この意識をもって、スクラップ&ビルドをしないと、何を決めてもダメであろう。

授業公開・夏OS・水分補給 よろしくお祈りします！  
次回の「校長研修だより」は2学期始業日にします